

# PLUS ULTRA

～さらに向こうへ～

6学年  
第18号  
令和3年11月26日

## 入賞おめでとう！！頑張りが成果に！！

夏休みに取り組んでいた作品や授業で取り組んだ作品が入賞しました。作文やポスター等、どれも自分たちで工夫し、表現したものでした。入賞した作品以外にもグループや個人で頑張った作品がたくさんありました。これからも創意工夫する力、自分の考えを表現する力を高めていってほしいと思います。

また、28日（日）の学習発表会にむけて狂言「附子」を練習しています。狂言独特の言い回し、所作等、難しい部分もありますが、6年生最後の学習発表会を成功させようと一生懸命がんばっています。本番では一人ひとりが精一杯演技をします。



### 入賞おめでとう！！

#### 【「心に残る給食の思い出」作文コンクール】

文部科学大臣賞 橋高 日鞠

#### 【「社会を明るくする運動」作文コンテスト】

優秀賞 岡崎 絢香

入賞 徳毛 明日香

#### 【府中市立図書館を使った調べる学習コンクール】

府中市教育委員会教育長賞

橋高日鞠

図書館長賞

徳毛 明日香

入賞 赤塚 由羽 林原 星空 林原海

翔

#### 【ライオンズ国際平和ポスターコンテスト】

会長賞

徳毛 明日香

#### 【第21回みんなの新聞コンクール】

入選 鳥井 耀満

赤繁 美緒莉

橋高 日鞠

林原 星空

#### 【MOA美術府中児童作品展】

書写の部 府中市長賞

徳毛 明日香

絵画の部 入選

橋高 日鞠



岡崎 絢香

「△の気持ち」

二〇二〇年に発生した新型コロナウイルス感染症で、日本だけでなく世界の人々はそれまでの自由な生活から、様々な行動を制限される生活へと大きく様変わりしました。私の周辺でも、通っている小学校が休業となったり、運動会や発表会、地域の行事は中止や時間短縮で開催されたりすることが多くなっています。家族旅行にも行っていないし、県外の親戚の人達にも会えていません。コロナ前では当たり前だった日常が、今では決して当たり前ではなくなってきており、あの楽しかった日々がともなつかしく思えると同時に、何もできないことに少しもどかしさを感じるようになってきています。こんな気持ちをもつのは私だけでなく、きっと多くのみなさんが持っているのだと思います。

そんなコロナのストレスを抱えているためなのか、最近は自分の名前が出てこないことを理由に、SNSで、多くの人が心ない誹謗や中傷を発言したり、「マスク警察」や「自粛警察」と呼ばれるように、周りの人々がきちんとできているかを監視したりするなどの行動に関するニュースをテレビや新聞で目にする機会が増えてきている気がします。そして他人の間違った行動に対して「自分は正しい行動をしているのに、何故あの人はしていないのか、出来ていない人は徹底的に懲らしめなければならぬ」という考えから、SNSなどで間違った行動をした人を立ち直れなくらいまで言葉の暴力で追い詰めたり、時には他人の命を奪ったりする悲しい出来事が引き起こされています。

それは自分にとって都合の良い情報だけで目の前の出来事を判断して結論を出し、その結果「〇か×か」の両極端な結果でしか考えることができなくなっているからではないかと思うのです。世の中は「〇か×か」で全て片付けられるほど簡単ではなく、そう考える人がどんどん増えていけば、少しずつ、人間関係がギクシャクした社会へ、悪い方向へと変化していく気がします。

このような「〇か×か」の感覚を少しでも減らすために、他人の行動をある程度許すことができる〇（まる）と×（ばつ）の間の、「△（さんかく）」という気持ち「△」をみんなが持てればよいのではないかと思います。

私は、学校のクラスメイトや両親、祖父母その他、様々な人々と接する時、心に決めていることが二つあります。一つ目は「まずはやさしい気持ちで接する」そして二つ目は「人の痛みを考えて行動することです。これは「△（さんかく）」という気持ち「△」をきちんと実行するための心構えでもあると思います。そんな心構えについて、最近クラスの仲間が実際に行っている場面に出会いました。私のクラスは一年一クラス、男女合わせて十六名と少ない人数ですが、一年生からずっと同じク